

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2012年9月 64号

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com
http://keaf-japan.com



《6月現地訪問報告》

新年度奨学生は男女半々

高校生枠 10人増で計 106人

事務局スタッフの岡宮喜雄さんが6月17-24日の日程で現地訪問し、奨学生選考の面接をして9月からの新学年の高校奨学生106人と大学奨学生2人が決まりました。高橋奨学基金(会報63号参照)によって枠が10人増えました。高校奨学生の学校別や男女別の内訳は次の通りです。

▽プロモルプロム 72人(男40、女32)

▽コンポントゥラバイ 32人(15、17)

▽タッコー 2人(1、1)

合計106人の男女別は56対50とほぼ半々です。カンボジアの農村社会でもヤング・ウーマンのパワーが感じられます。

プロモルプロム高校に奨学生が多いのは、KEAFの支援地域の中心に位置しているの、周辺中学校からの進学生が一番集まりやすいからです。

大学奨学生1号のレン・サイ君がプノンペン大学を卒業しました。さらに大学院で勉強を続けるとのこと。プロモルプロム高卒業の2人が新たな大学奨学生に決まり、5人枠がいっぱいになりました。

教科書支援 1万冊の大台超え

岡宮さんは4校に610冊の教科書および副教材などを届けました。教科書は現12年度(11.9~12.8)3回目分で、年度合計は3,046冊になりました。11年度は3,231冊でした。KEAFが教科書支援を始めたのは08年度で1,066冊でした。09~10年度の正確な数字がないのですが、5年間の支援冊数は7,342冊+α(09~10年度分)で1万冊を超えていることは間違いありません。

プロム校ブロック塀にカンパ

プロモルプロム小中高校のポーン新校長が校庭を300坪のブロック塀で囲む計画を進めています。学校のある郡都プサトリアの町は2年前にやっと電気が点いたばかり。でもわずか1~2年で泥水に浸っていたマーケットが改装され、銀行の支店が店開きし、新しい商店が増え、ガソリンスタンドも現れて人の動きが忙しげになりました。学校も所有地をはっきりさせようとなったのです。

ポーン校長は塀建設資金を自分たちで集めようと、町の人たちに趣意書を配りカンパを呼び掛けています。前校長ならまず「KEAFさん、お願いします」になったと思います。「自力更生」を支援しようとKEAFも3区画15坪分、\$315を引き受け、ほかに各自がカンパをすることにしました。会員、支援者の方々のカンパも歓迎します

親日ファミリー

今回の現地訪問は岡宮さんが1人で担当し、いつものガイド・通訳ソワンさんのほか義弟ナットさんに加わってもらいました。ナットさんは今夏プノンペン大学をトップで卒業、日本語は「+A」級です。6月に皇太子殿下が同大学を訪問したさいに学生を代表して日本語で歓迎挨拶をしました。ソワン夫人もやはりプノンペン大学日本語学科卒業で、空港で皇太子殿下をお迎えする政府スタッフの1人に選ばれました。

ソワンさんは大の親日家。甥のワンターさんも同じプノンペン大卒、若手の有数の日本通として引っ張りだこの活躍中です。ソワン夫妻は娘さんにかおり、息子さんに金太郎と日本の名前を付けています。

(岡宮さんの6月現地訪問報告から)

戦没ジャーナリストの慰霊碑

記者・カメラマン 37 人が犠牲に
危険いっぱいだったカンボジア戦争

カンボジアの戦場は“ジャーナリストの墓場”と呼ばれました。シアヌーク殿下を追い出すクーデターで成立した親米軍事政権をクメール・ルージュが打倒してポル・ポト政権の恐怖政治に移るまでのわずか5年間の戦争の間に、戦闘に巻き込まれ、クメール・ルージュにつかまり、あるいは消息を絶った記者、カメラマンは 37 人にも上りました。この不条理に満ちた戦争の真実を世界に伝えようとして命を捧げた彼らを永く記憶し、その魂を慰めようと、5月にプノンペンに慰霊碑が建立されました。



上の写真（共同通信プノンペン支局提供）でご覧のように、なかなか立派な出来栄です。建立場所はプノンペンを象徴する「プノムの丘」とメインストリートのモノヴィオン通りを結ぶグリーンベルトの中央部。戦争中には内外のジャーナリストのたまり場になっていたホテル・ル・ロワイヤル（当時はル・プノム）の真ん前です。

37人の「戦没ジャーナリスト」の中で日本人は石山幸基共同通信プノンペン支局長、一ノ瀬泰造フリーカメラマンら 10 人と最多で、フランス人 8 人、米国人 7 人が続いています。慰霊碑には彼らの名前が彫り込まれています。

慰霊碑建設計画を推進したのは、戦争中のプノンペン政府軍スポークスマンで、多くの国際ジャーナリストと親交のあったチャン・ソンさん（現政府顧問、米国在住）とカナリット情報相（現政権では数少ない文民）で、これを共同通信のピイ・キア記者らカンボジア人記者会のリーダーたちが後押ししました。

建設基金はチャン・ソンさん、カナリット大臣、生き残りの各国ジャーナリストらの募金活動で集められました。石山記者の家族や当時の同僚ら共同通信関係者も募金に加わりました。

慰霊碑は大虐殺現場キリングフィールド、陰惨きわまる粛清の舞台ツォルスレン政治犯収容所と並んで、あの悲劇的なカンボジア戦争を語るスポットになると思います。プノンペン訪問の機会があったらぜひ足を運んでください。

石山記者の慰霊碑も

夫人がウナローム寺院に建立

国際ジャーナリストの慰霊碑と並行して、石山記者慰霊碑が陽子夫人によってカンボジア仏教の総本山ウナローム寺院の墓地に完成しました。1993年に国連監視の下に実施された総選挙のとき、ポル・ポト派のテロで殺されたボランティア、中田厚仁さんの慰霊碑の隣に建っています。

皇太子殿下が6月に東南アジアを歴訪されたさい、中田さんの慰霊碑に献花され、すぐ横の石山記者慰霊碑にも頭を下げてくださいました。下の写真はそのシーンで、殿下の奥側が中田さんの慰霊碑です（同じく共同通信プノンペン支局提供）。

石山記者は消息を絶ってから8年後に、コンポンスプー州北西部アオラル山塊クチュオール山のクメール・ルージュ秘密基地で病死、ゲリラ兵士の共同墓地に埋葬されたことが分かりました。



それからまた 27 年後の 2009 年 1 月、夫人と長男、当時の共同通信同僚がこの墓地を確認しました。行方不明になってから 35 年余りが経っていました（『カンボジア通信』51-52号「忘れえぬ国、忘れえぬ人々」、55号『戦争特派員の墓場』参照）。

《カンボジア昨今》

☆中国派にくら替え！？

カンボジアの「歴史問題」が複雑な様相を呈しています。カンボジア人が嫌いなのは第1にベトナム、第2にタイ。インドシナ半島に覇を唱えた栄光のアンコールワット帝国は、この両国に挟み撃ちされて今の「小国」に閉じ込められたからです。1970年代から中国嫌いも加わりました。

毛沢東の農村革命を妄信したポル・ポト政権の恐怖政治が5年間。皮肉なことにその暴政から解放してくれたのは、ポル・ポト派から離反した親ベトナム勢力を押し立てたベトナムでした。ベトナムの背後にはソ連がいました。冷戦時代のことです。中国と米国がポル・ポト派を支援、大国の代理戦争としてのカンボジア内戦が20年も続きました。ですから今のカンボジア政権は親ベトナム、反中国だったのです。

プノンペンで6月に開かれた東南アジア諸国連合（ASEAN）外相会議で南シナ海の島嶼（しょ）の領有権を巡る中国とフィリピンやベトナムなどの対立が先鋭化、議長国のカンボジアが中国寄りの姿勢をとって共同声明が採択できない事態に陥りました。フィリピンは議長が不公平な議事運営をしたと強く非難し、カンボジアも対抗して駐フィリピン大使を召還しました。

カンボジアの中国寄りには唐突感があります。でも理由はちゃんとありました。数年前、カンボジア西部の山岳地帯を車で走ったことがあります。果てしない凸凹道にげんがりしていたら、突然ブルドーザーで固い赤土を真っ平らに削り取ったハイウエーが現れました。数キロでしたが一息つきました。近くに中国が多数の労働者を送り込んで開発にあたっている鉱山があるという話でした。この10年の外資のカンボジア投資の4割は中国が占め、第1位です。

中国は00年に江沢民主席がカンボジアを訪

問、翌01年に李鵬首相、06年に温家宝首相と歴代政府トップ級がお土産持参で足しげく訪れています。カンボジアの国父とされるシアヌーク殿下が1970年親米軍部のクーデターで追放されると、中国が身柄を引き受けました。殿下は最近も病気治療のため毎年のように訪中しています。カンボジアの中国寄りの背後には、良かれ悪しかれ、中国の長年の外交努力があったのです。

☆世界不況の中の高度成長

カンボジア経済は1990年代末に成長が始まり、99～00年+4%、04～07年+10%の高成長をとげました。リーマン・ショックの08年は-6.7%、09年も-1.9%とあおりを受けましたが、10年には+6.7%に回復しました。

この間GDP（国内総生産）および1人当たりGDPは00年\$32億/260、05年\$54億/380、10年\$113億4344/760とこの10年で急速な伸びを達成しました。農業がGDPに占める割合は00年の5割から10年の3割へと大きく低下し、工業化が急速に進んでいます。

☆家を追われる貧しい人

高度成長のメカニズムは少数の富者と多数の取り残される人を生みます。プノンペン市北部のボンコク湖周辺の湿地帯や湖岸に内戦終結後、貧しい人たちのスラムが広がりました。政府はこの地域を商業地区に再開発する計画を進めています。その開発権はある上院議員が握っているそうです。2年前に埋め立てが始まり、住民が強制的に立ち退かされています。代替地や補償金は与えられているようですが、住民は不十分だと納得せず、座り込んだり裁判に訴えたりして抵抗しています。

ポル・ポト時代に個人財産が否定され、土地台帳が破棄されたりして、土地所有権や居住権がいまになってしまいました。ボンコク湖のような経済開発と土地を巡るトラブルが各地で続発していて、2011年には全国で6万人が強制的に立ち退かされたと報道されています。

ありがとうございました

(2012年5月21日～8月20日)

年会費、寄付金、奨学金をお振り込みくださった方々に心からお礼申し上げます (敬称略させていただきます)

(東京) (東京) (埼玉) (神奈川) (東京) (東京)
(東京) (東京) (群馬) (東京) (東京) (神奈川)
(東京) (滋賀) (神奈川) (千葉) (神奈川) (岐阜)
(東京) (東京) (東京) (東京) (東京) (東京)
(東京) (熊本) (埼玉) (東京) (東京) (秋田)
(神奈川) (千葉) (東京) (埼玉) (大阪) (熊本)
(大阪) (埼玉) (埼玉) (株) (東京) (東京) (神奈川)
※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています ※写真つき奨学生紹介の2,3,4,5,頁は個人情報保護のため省略

◇KEAF 連絡先が変更

JICA事務所の移転で

KEAF が郵便箱やロッカーを置いていた東京・広尾の JICA 地球ひろばが9月初め新宿・市谷の JICA 研究所ビルに移転しました。KEAF もくっついていきました。広尾の閑静な高級住宅地の一角を占める JICA 広尾ビルが民主党政権の「事業仕分け」で、「国有財産の無駄使いだ」と批判されたためです。もっと有効な使い方があり得るとは思います。でも、対外援助がどんどん軽視されてきた流れが気になります。

以下が新しい連絡先です。

〒162-8433

東京都新宿区市谷本村町 10-5

JICA 地球ひろば 気付

カンボジア教育支援基金

(KEAF-Japan)

Email info@keaf-japan.com

HP <http://keaf-japan.com>

(JICA 地球ひろばの連絡先は、電話 03-3400-7278

Email chikyuuhiroba@jica.go.jp)

◇事務局活動のボランティア募集

事務局活動で一番人手がかかるのが年4回の会報『カンボジア通信』の発行作業です。編集、印刷、差し込み、シール貼り、封緘、発送など。毎号 850 通ほどを会員、支援者・団体、メディアなどに発送します。作業は3、6、9、12月の第1土・日曜午後です。

ボランティア参加をお待ちしています。

カンボジア教育支援基金

(KEAF-Japan)

第14回 総会

会員、支援者の皆さん

多数のご出席を

お願いします

2012年11月11日(日)

午後1-4時

東京都新宿区市谷本村町 10-5

JICA 地球ひろば会議室

03-3400-7278

chikyuuhiroba@jica.go.jp

◇支援の物品

ありがとうございました

手提げカバン: 3個・

(東京)、

(千葉)

ボールペン・ノートなど文具:

ダンボール1箱分・

(東京)

◇事務局から

KEAF-Japan の「知名度」

「KEAF はカンボジアでユニークな支援活動をしているのですが、どんなことをしているのか教えてほしい」。こんな問い合わせがネットを通して事務局に寄せられることがよくあります。最近ではいくつかの大学の研究会や卒論執筆中の学生、あるいはシニア社会人から申し出がありました。アム

ネスティー・インターナショナルからは、定期刊行物にカンボジアの子どもの写真を何枚か掲載したい、KEAF ならいいショットを持っていると思うので、提供してもらえないか—という要請がありました。いずれもできる限りの対応をしました。

東日本大震災は、政府や大きな団体の支援が思うようには行き届かない現実、そこを埋める個人や小さなグループのボランティア活動の重要な役割、を教えてください。躍進するアジアの中でなお最貧国から脱しきれないカンボジアに対する関心が広がっているとすれば嬉しいことです。KEAF の活動も結構知られるようになってきたのかな、とこれも悪い気はしません。